

吉井地区タウンミーティング開催報告

【日 時】 令和4年9月21日（水）19：00～20：30 【場 所】 吉井公民館 2階集会室

【参加者】 吉井地区連合自治会長など全8人

市長、公民館長、危機管理監、危機管理課長、危機管理課副課長

【次 第】 1 開会 2 挨拶（吉井地区連合自治会長）

3 市長挨拶・事業説明（別添資料）

4 事業説明：テーマ「防災・減災」

5 まとめ・閉会

概 要

【自治会長挨拶】

地域住民と市と一緒に地域のことを話し合うことで、私たちの声を活かし、愛着の持てる地域づくりに繋げたい。

I 吉井地区で想定される災害

- ・政府の想定では、今後40年以内に南海トラフでマグニチュード8～9クラスの地震が発生する確率が90%。
- ・南海トラフ巨大地震を想定した吉井地区の震度は、震度7及び震度6強である。（平成13年3月の芸予地震は、マグニチュード6.7、丹原町で震度5強。）
- ・津波による浸水想定では、吉井地区は国道196号から海側の地域がほぼ浸水する。
- ・液状化（地震によって地盤が一時的に液体のようになり、家が傾いたり、道路が通れなくなったりする）の危険度が「極めて高い」または「高い」地域である。
- ・中山川ハザードマップや広江川、一ツ橋川、崩口川浸水想定区域図では、これら河川の氾濫により吉井地区全体、または一部が0.5m～5m浸水する。
- ・高潮ハザードマップでは海に近い地域で3～5m浸水し、玉之江駅付近まで浸水すると想定。
- ・台風や前線が起因の氾濫や高潮は、ある程度、事前の予知ができる。
- ・地震は突発的に起こるため、予防的な取り組みや減災行動が重要。

II 災害への備え

- ・近年、激甚化する災害に備え、自分たちの命は自分たちで守る「自助」「共助」の重要性が高まっている。
- ・ライフラインが途絶えた場合に備え、必要な生活物資を1週間備蓄しておくことが望ましい。（食糧は、賞味期限が近いものから食べて買い足す『ローリングストック法』が良い）
- ・避難する時には3日分の非常用持ち出し袋を準備しておく。
- ・洪水などから身を守るためには「早めの避難」が重要。避難の際には、公共施設だけでなく安全な親戚や知人宅へ避難することも考えてほしい。
- ・平時から災害に対し「いつ」「何をするのか」を整理し、家族、近所、地域で決めておくマイタイムラインの作成を推進している。作成には危機管理課職員がサポートする。

III 避難行動要支援者避難支援制度

- ・自然災害時には、自力で避難・移動が困難な高齢者、障がい者（＝避難行動要支援者）に対する、近隣住民による安否確認や避難支援が生死を分ける重要な支援活動となる。
- ・市では、避難行動要支援者支援の体制を整備するためのプランを策定している。
- ・市から各地域で対象と思われる方の名簿を自治会長に共有し、地域で「登録台帳」の声掛けをお願いしている。
- ・同意いただけた「登録台帳」をもとに、「名簿」を完成させ、日ごろの支援活動や防災訓練に活用いただく。
- ・災害時、避難支援を実施し、自治会長（自主防災会長、民生児童委員）等は名簿に記載がある人全員の安否確認を行い、市に報告する。
- ・自治会単位で「名簿」の作成を進めているので、ぜひ協力いただきたい。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
避難時における公民館の収容人数	
<p>吉井地区は、公民館が避難場所になっている。最大の収容人員はどれくらいか。</p>	<p>現在、各公民館、学校で三密回避し、体調不良の人の隔離部屋を設けている。 <u>終了後、公民館を通して連絡：指定避難場所（災害から一時的、緊急的に避難する場所）としての収容人数は228人、指定避難所（被災者等必要な期間滞在させるための施設）としては91人であるが、コロナ感染対策により、現在、35人に制限している。</u></p>
小学校での避難計画	
<p>洪水対策について、吉井小学校の近辺に高い建物がない。第一次の避難は小学校の2階や屋上、その次は東予東中と考えているが、それ以降の避難先は、具体的に出せてない。</p>	<p>学校の場合、勤務している保護者が戻るまでの間、児童の安全を確保することが重要になる。保護者に無事に引き渡すまでで、長期にならない限り、今の垂直避難の考えで十分だと思う。</p>
防災意識の啓発	
<p>資料で説明いただいたが、正直に言うと、我々の中にそこまでの危機感はない。吉井地区でも自主防災組織を立ち上げ、備品等の整備はしている。 今後の活動では、地元の方にどのように危険性を伝えていくかが一番の課題。 地震、津波に対する危機意識を持っている人は少ない。ハザードマップもどれほどの人が見ているか。 このエリアの堤防は最初の一撃でほとんど壊れ、ゆっくりとした津波が、国道くらいまで来ると自分は思っているが、周りの人にいかにリアルに伝えるかが難しい。</p>	<p>大きな災害を経験したところでも数年経つと危機意識が薄れてくるという状況である。 一人ひとりに意識を持ってもらうことが大事なので、近所、コミュニティで声を掛け合うことでより伝わる。</p>
ハード面の整備、水の備蓄	
<p>オレンジフェリーのターミナルを移設する時に、広江地区に災害時の備蓄エリアを設置するということだが、広江の海岸道路は25t以上のトラックは走れないことになっている。整備中の道路が完成したら丈夫になるだろうが、地震発生で広江川がもたない。北側の堤防は強度がない。国道から下流側を1地区のみ、県が嵩上げ工事をした。 また、広江川が切れることが一番怖い。中山川はどこが切れるかによって、吉井の被害がまるっきり変わる。 水の備蓄について、うちぬきだから出ると思っている人が多いが、芸予地震の時、うちぬきは濁っており、澄みきるまで1週間かかった。うちぬきはあてにならないと思っていた方がよい。</p>	<p>「事前に何ができるか」を地域が一緒になって考える機会を一つでも多く作る必要がある。そのためには、先ほどお話いただいた思いをより多くの人に伝えていくことから始めてはどうか。備蓄品のことも、まずは自分や家族の1週間分を用意してほしい。 ハード面の河床掘削や東予港付近の道路補強などについては、時間をいただくことになるが、できることを県と相談しながら対応していく。 中山川決壊の想定場所について、県が重要水防（危険）箇所として中山川全体で約6kmを指定しているが、その中には、吉田橋から小松バイパス整備箇所付近までの区域が含まれている。</p>
【まとめ】	
<p><市長> 災害はいつ襲ってくるかわからない。訓練以上のことはできないとよく言われるので、しっかりした準備が必要。会長だけが抱えてしまうことがないように、グループで一緒になって考えていく姿勢で取り組んでいく。</p>	
<p><連合自治会長> 吉井地区全体で災害に備えた話し合いを続けていきたい。</p>	

<当日の様子>

